

うま獣医のよもやま話 ⑩ 佐藤和茂 獣医師

創傷の治癒について



基本情報
恋愛対象 女性
交際ステータス 既婚
性別 男性
血液型 B型
連絡情報
携帯電話
09087097712
メール
superjockey33@gmail.com

静内診療所 佐藤和茂
平成9年入社

馬の外傷管理は市場のトラブルや商品価値を決めるうえで、重要な事です。また傷の処置を誤った場合には馬の予後に大きく影響を与えることもあります。このたびは馬の外傷管理についてご紹介します。

外傷はこの二つの形式で、治癒に至ります。

- 1 次的癒合⇒縫合により、皮膚の組織が再生して癒合する。
- 2 次的癒合⇒傷を開放したまま肉芽を形成して癒合する。

一次的癒合は傷の修復が早く、7日から10日で強力な皮膚に治癒します。感染などにより一次的癒合が成立しなかった場合には二次的癒合に転換して、上皮は痂皮を形成し、脱落して治癒に至ります。言い換えれば、縫合しなかった場合、或いは縫合した傷がはじけた場合は全て二次的癒合で治癒するということであり、その治癒に要する時間は傷の大きさ、深さ、治療方法に左右されます。

傷を早く綺麗に治したい時や、傷が深く骨や靭帯、腱が見えた場合は、獣医師を呼び相談する事が必要だと思います。この時、傷の場所と経過時間により、判断する事が非常に重要です。また、何時、傷を受けたか解からない場合や傷が深い場合には二次的癒合を進めるべきです。

一次的癒合は、獣医師の経験と知識、技術により、上手く達成されるものですが、治療にかかる経費や運動制限が必要となるので、始めから二次的癒合を選択する事が賢明な場合もあります。

そこで二次的癒合が上手く達成される為の簡単な要

点を整理しておきます。

二次的癒合は、良性肉芽を形成させる事が目的ですが、治癒の経過には順序があり、誤ってしまうと治癒に時間がかかる場合があるので、その機転を上手くコントロールすることが最大のポイントになります。

- (1) 感染の除去→悪性肉芽の増生を抑える
- (2) 滲出液の排除→皮下への広がりを抑える
- (3) 乾燥→表面の保護、傷の収縮

この順番で治療を進めると、かなり良好な経過で治ると思います。

そして一番注意したいのは四肢の場合で、特に腕節、飛節より下の部位です。この部位は、筋肉がないため、血流に乏しく、地面からの感染に暴露されやすいので、悪性肉芽の形成が著しく、そのままにしておくと取り返しのつかない状況になる事があります。必ず傷を洗ってから包帯を巻くことをお勧めします。そして、効果を発揮するのはミョウバンを当てて巻く方法です。



無水硫酸カリウムアルミニウム

ミョウバンは治癒を妨げる因子（傷口の滲出液、血液、壊死組織と細菌感染）を素早く吸収し、熱をもって焼くために傷口の収縮が著しく早いのです。



受傷後、洗ってミョウバンを2日当てたところ焼けて黒く痂皮が形成される

様々な傷薬や治療法がありますが、私の経験上馬の傷には焼きミョウバンと言えるほど万能で、効果があると考えています。お試しください。(^^)